

『映像にやどる宗教、宗教をうつす映像』

(せりか書房) 6月10日刊行

ISBN978-4-7967-0305-5 本体2,800円、税込2,940円



映像に やどる宗教 を うつす 映像

〔編〕
新井一寛
岩谷彩子
葛西賢太

「映像」も「宗教」も 不可視を現前させる装置であった

プロパガンダ映像にみるイスラーム過激派の戦略と苦悩、癒しの聖地ルルドの意外な顔、神秘体験を無から創造する映像、肉感的な映像の引力、映像的体験と宗教的体験のシンクロなど、映像を聖性顕現の場と転じさせる魅惑的な実践の探究。映像は宗教に生と再生(イニシエーション)をもたらすか？

せりか書房

お問い合わせ先: せりか書房 <http://www.serica.co.jp>

不可視を現前させる「映像」という装置は、宗教になにをもたらすか！？

われわれは日々さまざまな映像の中に暮らしますが、映像を受け身で鑑賞し、消費するだけの時代は去りました。いまやわれわれは携帯電話で映像を撮影するのみならず、編集さえ行い、その場からインターネットを通して発信することもできます。祭礼や伝統行事が家庭用のデジタルビデオカメラで撮られて投稿され、それがテレビ番組の一部を立派に構成しています。デジタル化に代表される映像メディアの革新は、われわれの生活世界を根底から変えつつあります。

宗教をめぐる考えれば、映像実践がとても身近になったことで、撮影や編集に伴っていた権威が薄らぎました。これに危機感をもつ宗教者もいますが、映像表現を積極的に取り入れる宗教者も増加しています。とはいえ、映像実践における変化の本質は問わぬまま、技術の変遷に追われ振り回される現状もみられます。そもそも宗教の実質は、映像に映し出せるものなのでしょうか？映像となった宗教、あるいは世界のかたちは、われわれになにをもたらすのでしょうか？

本書は、進化しつづける映像メディアがそなえるにいたった神秘や力の次元にも光をあてながら、映像を宗教研究にもちいる際に生じる困難と可能性に迫ります。映像と宗教をめぐる京都大学での共同研究は、映像実践が変容する現状を捉え、宗教を研究するさまざまなアプローチを問い直すものでした。結果的に、諸宗教を横断する魅惑的な実践の探究が、一冊にあつまりました。みずから映像実践にかかわってきた研究者による論考とコラム、専門家の寄稿、先鋭的な対談をおさめた本書は、映像をとおして現代世界へアプローチするすべての人に問いを投げかける一冊です。

目次
序章 映像と宗教
第一部 宗教とメディアの現在＝中東イスラーム主義運動の映像戦略／東南アジアにおけるイスラーム主義武装闘争派の映像戦略 ／〈証し〉と〈開示〉／リアリティ、真正性、リテラシー／映像実践 1 信仰を撮る／映像を超えて／映像実践 2 映像から考える
第二部 映像の宗教性＝霊の増殖とメディア／映像の肉感学／映像技法から見る宗教性／映像に「ふれる」こと／映像実践 3 映像を活かす／世界・日本の映像アーカイブ事情／映像人類学の理論と実践、その新たな展開の現在／対談 映像表現の最前線と宗教体験

せりか書房

Tel 03-3291-4676 Fax 03-3291-4677

E-Mail serica-shobo@nifty.com <http://www.serica.co.jp>

一般書店でも購入いただけますが、この申込書を利用すると、定価 2800 円のところ、2300 円に割引(送料 無料)が受けられます(せりか書房への直接申し込みに限る)。

せりか書房御中

『映像にやどる宗教、宗教をうつす映像』(ISBN 978-4-7967-0305-5)を申し込みますので
下記住所に送付願います。代金は書籍同梱の振替用紙で後日送金いたします。

氏名 _____

冊数 _____ 冊

送付先 〒 _____

電話 _____

せりか書房 Fax 03-3291-4677 E-Mail serica-shobo@nifty.com